

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/福祉学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神保健の課題と支援 I (福祉心理学科)		必修 (精.心) 選択 (社)	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
古川 奨	B313	t-furukawa		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p><目的> 精神の健康についての基本的考え方を理解し、現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割や関係職種や連携機関について理解することを目的とする。</p> <p><概要> 課題学習、同時双方向型授業を通し精神の健康要因、家族、学校、勤労者が抱える精神保健における課題と支援方法について講義する。また教員と受講生相互の応答、課題学習に対するフィードバック、質疑応答を行うことで就労支援の実際について理解を深める。</p>				
学習上の助言	最新の施策の動向と地域の実践事例と照らし合わせ精神保健について考える力が必要となるため、新聞やニュース等から最新の情報を収集しながら理解を深めてほしい。				
教科書	新精神保健福祉士養成講座 2 第 3 版 精神保健の課題と支援/編：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟/中央法規				
参考書	適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	精神障害をもつ人が直面しやすい困難と困難からの回復について理解し説明ができる。				社精心(1)(2)
②	医療や福祉など、精神保健活動が必要とされる領域や場について理解し説明ができる。				社精心(1)(2)
③	精神保健に係る法律、制度の変遷について理解し説明ができる。				社精心(1)(2)
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	課題を通して授業の進め方、評価についての説明) 障害者福祉を学ぶことの意義について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	指定教科書のはじめにを閲読する。		2
2	課題を通して精神保健の概要と課題について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	指定教科書の同目次部分を閲読する。		4
3	課題を通して精神の健康とその要因①について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
4	課題を通して精神の健康とその要因②について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
5	課題を通して精神の健康への関与と支援①について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
6	課題を通して精神の健康への関与と支援②について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
7	課題を通して精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ①について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
8	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ②について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
9	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ③について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
10	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ①について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
11	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ②について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
12	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ①について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
13	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ②について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
14	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ③について学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の同目次部分を閲読する。		2
15	14 回までの総まとめについて学習する。	同時双方向型授業	14 回までの課題、教科書、講義内容について総復習をする。		4
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照。				

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/福祉学系】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計	
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他		
		50	0	0	0	50	100	
総合 力 指 標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50	
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	10	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5	5	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
問題を発見・解決する力		0	0	0	0	10	10	
評価のポイント							フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	定期試験を実施し評価する。試験内容は、同時双方向型授業で説明した内容から学生が達成すべき行動目標に示した部分の理解度を問う問題を出題する。					定期試験後、解説を研究室前に張り出す。
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	第7回までの課題、同時双方向型授業後のリアクションをまとめるための課題を確認し、授業内容の理解度を評価する。					課題、リアクションについては、必要事項について同時双方向型授業で説明を加える。
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励します。 尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもあります。</p> <p>「授業計画」の事前事後学習に加え、講義中に紹介した図書、映画、動画資料などを閲覧し、幅広い視野から精神保健についての学びを深めることを課題として課す（26 時間）。</p> <p>教員の実務経験：教員の实務経験：ソーシャルワーカー、精神保健福祉士として 9 年の臨床経験。 実践的授業の内容：学生が身近に感じている福祉を共有しながら、教科書に記載されている一般的事項を確認する。精神保健福祉士としての教員自身の実例を示し、専門家が提供する福祉と地域住民が求める福祉に関する認識の違いについて学習する。</p>								